

平成24年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490400049	事業の開始年月日	平成20年8月1日
		指定年月日	平成20年8月1日
法人名	株式会社 保健科学研究所		
事業所名	グループホーム 本牧つばき園		
所在地	(231-0823) 横浜市中区本牧大里町24-10		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	ユニット
自己評価作成日	平成25年1月25日	評価結果 市町村受理日	平成25年5月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

★25年8月1日で5年になります。住宅街という立地ではあるものの緑にあふれた環境の中で、利用者様が不安やストレスを感じないで過ごせるよう心がけております。地域の皆様との交流の場に参加したり、園庭にて家庭菜園で野菜を作ったり収穫などもしております。スタッフも伸び伸び働ける環境であり、利用者様にとっても熱い気持ちで接しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成25年2月5日	評価機関 評価決定日	平成25年5月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><事業所の優れている点> ◇積極的な行事開催 ・利用者楽しんでいただけるように、さまざまな行事を計画し、事業所内の前庭で夏は花火大会やバーベキュー、秋にはミニ運動会を行うほか、外出行事として初詣、お花見、江の島・鎌倉遠足、ミカン狩りなどを行なっている。 ◇行き届いた清掃 ・共用の空間である廊下、居間、トイレなど清掃が行き届き、清潔感がある。居室も清潔で自分で掃除をする利用者もいる。職員は夜、モップ掛けをし、清掃に気を配っている。</p> <p><事業所が工夫している点> ◇家族へのきめ細やかな「ホーム便り」の送付 ・毎月、「本牧つばき園通信」で、写真入りの行事のお知らせ、事業所内での利用者の様子、食事、排泄、入浴状況、健康状況などをきめ細かく報告し、家族に安心感を与えている。 ◇心温まる誕生会 ・利用者一人ひとりの誕生日に誕生会を開いている。スタッフ手作りのケーキでお祝いし、色紙を贈呈して、利用者には喜ばれている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 本牧つばき園
ユニット名	りんどう

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットごとに理念を掲示している。毎朝の申し送りの時、会議の時に唱和している。	・法人理念「利用者の人権を尊重する」をミーティング時や会議時に唱和している。 ・全職員が日々の日常業務の中で、その理念の具現化に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、縁日や行事に参加している。地域のお店に買い物へ行き近所の方々と挨拶や会話などを通じて繋がりを続けている。	・地域との関係では、近隣中学校の職業体験実習を毎年受入れている。 ・また、地元の縁日や餅つき大会、夏祭りには利用者も参加し、その他、散歩や買い物途中で、近所の人と挨拶を交わして地域の方々との交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所や職員の状況に応じて運営推進会議を始め職員会議などで地域に役立つ事はないか何が出来るかを話し合い、取り組んでいる。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの質の向上を目指して意見や苦情をどの様にしていくのかを職員で話し合い次の会議にて報告をしている。	・年4回を目標に開催し、町内会長・地区連合会長・地域包括支援センター職員や複数の家族が出席している。 ・事業所からの報告の他家族への要望事項として、かかりつけ医受診時の付き添い協力、運営推進会議への出席、重度化の際の対応などをお願いしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村への連絡は主に管理者が行っている。利用者の変化や対応の相談は随時管理者・ケアマネジャーが相談の上、連絡する体制をとっている。	・中区役所には管理者が出かけ、入居者に関する報告や相談事項のアドバイスを受けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルが閲覧できる状態になっている。毎月のユニット会議において身体拘束に繋がっていないかを確認している。	・ユニット会議で「身体拘束禁止規定」を研修し、職員間で身体拘束をしないケアについて確認している。管理者は職員に対し「制止するだけでなく見守る」大切さを指導している。 ・外門、玄関は日中開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は研修などに参加し報告会を行っている。毎月のユニット会議にて気を付けているかを話しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会は全職員に至っていない。随時、ケアマネジャーが中心になって関係者と話し合い反映している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約書は利用者ご家族様と読み合わせを行い不安や疑問点について十分な説明をし理解頂けた上で署名・捺印を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を設置したり、面会時や運営推進会議を通じて意見を出しやすい状況を設けている。出された意見はどうか対応したのかを次の推進会議で報告し反映させている。	・利用者の思いや要望は日頃の会話の中で聞き出している。家族会は無く、家族からの意見・要望は主に運営推進会議、面会時に聞き出すようにしている。 ・毎月、家族宛、「本牧つばき園通信」で行事、利用者の様子、健康状態などの報告を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも職員の意見や提案を言える環境ができています。	・職員の意見・要望はユニット会議の他、管理者はいつでも聞けるよう声掛けしている。半年毎に職員に対し運営等に関するアンケートを実施し、意見を聞いている。 ・職員の提案で、新人スタッフが配属された時、利用者全員に紹介するようにした。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全ての希望を叶える事は難しいが、管理者は定期的に職員に人事評価やヒヤリングを行い、毎年決められた月に昇格を行なっている。また実績によりパートから契約社員昇格制度、正月の特別手当などがある。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○J Tにより一人ひとりの力量に合った職員の研修や指導を介護事業部全体として研修指導を行なっている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近くにあるグループホームとの交換実習を行なったり介護事業部の5つの施設との勉強会を含めサービスの向上を目指している。			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談でご家族と一緒に来所して見学していただくことで安心の確保に努めている。お話できる方ならば、面談時に話しかけることで思いを聞き取っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の段階でなぜ入所を考えるようになったのかを入り口に、家族等の困っている事、不安な事に耳を傾け気持ちを受け止めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様からの不安や思いを傾聴し、その内容を職員間で共有する。職員同士でも相談しながらその時々に必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさを失う事無く明るく元気で自立した生活を送って頂けるよう、職員は喜怒哀楽を分かち合えるような関係作りを行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を第一に考え些細なことでも情報を共有し、サポート的な立場で共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会・外出・外泊は自由に行っていただいている。友人や知人・馴染みの場所との関係が途切れないようにサポートしている。	・利用者のこれまでの交友関係などは、「生活記録」や本人との会話、家族来訪時に情報入手している。 ・知人・友人の来訪時には居室でゆっくり歓談できるように支援している。電話の取次ぎ、手紙のやり取りの支援にも努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し一人ひとりが孤立することなく支えあえるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約が終了した後でもご家族様の承諾を得てホームの様子をお伝えしたり、近況をお手紙で頂いて相談や支援に努められた関係を断ち切らない取組みに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り一人ひとりの思いに添えるように支援を行っている。それでも困難な場合はなぜかを納得して頂くように努め、なるべく思いや意向に近づけたサービスの提供を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常会話の中から、利用者の思いや希望を聞き出すように努めている。把握した情報は個別記録に記録し、申し送り時、ユニット会議時に職員間で共有している。 ・コミュニケーションが困難な利用者については、表情や仕草から意向の把握に努めている。 	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	様々な情報をコミュニケーションの中から把握し、記録に残し全職員で共有する事で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録を活用し日頃からの状態の観察に努め一人ひとりの現状の把握に努めている。また毎月のカンファレンスにて情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制をとり担当職員を中心に利用者の思いや意向の把握に努めユニット会議で話し合いプランを立てている。内容をご家族に説明し同意を得て署名と捺印を頂いている。	・介護計画は担当の職員を中心にユニット会議で話し合い、医師の指示事項を参考に作成し、家族に説明している。 ・介護計画は6か月毎に見直し、状況変化時には臨機応変に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にて実践結果、気づきを記入し、朝、夕の申し送りにて情報を共有し日々の介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な面会、外出、外泊、メニューの変更などの柔軟なサービスの取り組みを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防、文化施設を活用し豊かな暮らしの支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に受診を希望する医療機関を確認している。家族の協力も得て受診対応して頂いている。協力医療機関の医師による診療が月に2度。訪問看護師による健康チェックが週1回受けられるようになっている。	・入居時に家族と話し合い、事業所の協力医に切替える旨の了解をとり、同意書に署名を貰っている。 ・眼科、外科などの通院は原則家族が付き添い、結果を家族から聞き、記録している。 ・月2回の協力医の往診、月1回の歯科医の往診の他、毎週訪問看護師による利用者の健康管理が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で看護師と利用者様との信頼関係が出来ており、職員と共に情報を共有する事で適切な看護を受けている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを通じて日頃の生活状況や入院に至った経過を即日、医療機関に届け早期退院に向けて、ご家族・医師との相談をその都度行っている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに対しての考えはあるが、対応までにはいたっていない。家族にはその旨話して、事業所でできるだけ支援を行っている。	・法人の方針で「重度化、終末期の対応はしない」旨を、入居前に家族に説明し、合意を得ている。現状、重度化した利用者はいないが、事業所で協力医等と連携して出来る範囲の支援は行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルがある。職員の勉強会や消防職員・看護師による応急手当の方法などを学んでいる。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に夜間を想定した場合などの避難訓練を行っている。地域との協力体制を築きかけている所である。	・原則年2回、避難訓練を実施している。スタッフの誘導で2階の利用者は非常階段を使い、全利用者が訓練に参加している。 ・防災設備としてはスプリンクラー、消防署直通の火災報知器が設置されている。 ・水、乾パンなどの備蓄品を確保している。	・地元自治会から災害時に協力が得られるような「災害協力協定」などの締結の検討を期待します。	

自己評価	外部評価	項目	外部評価	
			自己評価 実施状況	外部評価 実施状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉掛けや対応をしない様ユニット会議にて周知徹底している。	・利用者の人格を尊重し、管理者は、利用者に対し制止や否定の言葉を使わないよう職員を指導している。 ・プライバシーへの配慮としてフロア内では個人に関する話はしないこととし、個人情報の記載書類は事務室で施錠管理している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの願いや思いを尊重しコミュニケーションの自己表現が出来る様に働きかけ自己決定が出来る様支援を行っている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、その日の一人一人のペースにあった過ごし方が出来る様に対応している。ドライブや散歩も希望を伺っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面や洗髪・髭剃りは習慣として声かけで維持している。更衣時に組み合わせをアドバイスしたり褒めることでおしゃれへの関心を引き出している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は委託業者が作成したものであるが、時には外食に出かけたり、餃子や焼きそばを作ったりなどしている。動ける利用者様とは職員と一緒に盛り付け、配膳、食器洗いなど一緒に行っている。	・食材は業者に委託しているが、調理は職員が行い、利用者は盛り付けや配膳、下膳などできることに参加している。 ・夏場には前庭で流しそうめんやバーキューを楽しんだり、毎月焼きそば、餃子、おやつ作りを利用者も一緒に行っている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	委託業者の栄養士による献立がたてられており毎食ごとにバランスの取れた食事の提供ができています。食事中も目配りし、利用者様の食事時の様子を把握するようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの支援を行って炒る。訪問歯科により定期的に口腔の状態を見て頂きケアの仕方など指導して頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとり排泄表を用いて排泄パターンを把握し声掛けを行いトイレにて自立の排泄が出来る様支援を行い失敗しても自尊心を傷つけない声掛けを行いトイレ内にて着替えを行っている。	・一人ひとりの排泄チェック表でそれぞれのパターンを把握し、自立支援を目的として、日中はさりげない声掛けを行いトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多いものを食事に一部加えたり、おやつに乳製品を取り入れたり腸を動かす為の運動など個々の排便パターンを把握し便秘の無いよう予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夜間入浴は行えていないが、菖蒲、ゆず、など季節を感じられる物を使ったり好みの入浴剤を入れたり個々に応じて入浴の支援を行っている。	・基本的に週3回午後入浴し、その日の健康状況に応じて順番を決めている。 ・入浴を好まない方には時間帯や順番を変えて誘導している。入浴剤やしょうぶ湯、ゆず湯で季節感を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて休んでいただくようにしている。見守りの際室内の温度や湿度を調整し寝具の乱れを直している。和室での休息が出来るように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用、使用されている薬の内容、薬の管理から服薬の確認までのマニュアルが作成してあり実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前にも生活歴や嗜好品、趣味など情報を収集しているが日頃のコミュニケーションの中で個々の喜び、楽しみを把握しそれぞれに敵した役割があったり気分転換が出来る様支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課表はなく、その日、朝のお茶の時間に天気や体調を考慮して一人ひとりとはいかないが利用者と相談し外出、散歩が見守りのもと出来る様支援している。また家族、友人といつでも外出できるよう協力を得て支援している。	<ul style="list-style-type: none"> ・天気の良い日は近くへ散歩に出掛けたり、入居者の希望に合わせてドラッグストアや大型スーパーへ買い物に出掛けている。 ・初詣や花見、江の島への遠足、みかん狩りなど年間行事としての外出も行っている。 	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所にてお預かりし、管理しているが外出の際には希望やそれぞれの力に応じて、お財布を持ちお金を使える様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などのやり取りが自由に行えるように支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには季節の花を飾ったり、掲示物を貼り温度や換気に十分気を付け、加湿器も設置している	・共有空間は掃除が行き届き、温湿度管理も行われ、壁には利用者の手作りのカレンダーや季節の作品を飾り、居心地の良い落ち着いた雰囲気となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室にて過ごされたり和室のソファを使ったり足を伸ばして会話ができたり思い思いの過ごし方が出来る様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	住み慣れた家の再現をしていただけるよう使い慣れた物や馴染みの物を活かし居心地よく過ごせるよう工夫している。	・エアコンとクローゼット付きの居室に、利用者は馴染みのタンスやテーブル、あるいは仏壇を持ち込み、家族の写真やお気に入りの色紙を飾って、居心地の良い自分らしい部屋にしている。 ・利用者はできる範囲で職員と共に自室の掃除も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・トイレ・浴室等わかりやすいように、プレートをかけて表示している。入居者様の目線で理解できるように配慮している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

本牧つばき園

作成日

平成25年1月25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		ボランティアを利用する事がなくスタッフだけでは手薄な感じがする。	ボランティアを活用してレクリエーションや介助補助などを充実させる	地域包括の担当者や、町内の方にご協力をして頂けるよう活動する	1～12ヶ月
2		利用者様が事務的に動かされている所が増えてきているような気がする。共同生活とはいえ何でもありもよくないのはわかるが、事務的過ぎるのもストレスを溜めさせてしまう。	自由な部分を見守りつつ安全と安定を考えてフォローするような形を作る	スタッフ同士で注意し合い利用者様が負担を感じている雰囲気になっていないか、確認し合う。	1～12ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。